

point 2

# 学びが 主体的になる

製作・実習や体験など多様な活動があり、頭と体を使って学べるのが、家庭分野の面白いところ。

開隆堂の教科書では、その家庭分野の面白さを、より感じてもらい、主体的に行えるよう、題材や紙面に工夫をこらしています。

その特徴は

- 1 生徒の興味・関心からはじまる学習
- 2 家庭でも取り組みたくなる調理実習例
- 3 普段から使いたくなる魅力的な製作実習例
- 4 授業が毎時間アクティブに展開できる
- 5 学んだことをすぐに生活にいかせる

自分で選んだ布で  
部活用のバッグをつくった。  
裏は昔はいていたジーンズを使って、  
リバーシブルになっています（16ページ参照）。



特徴 1

# 生徒の興味・関心からはじまる学習

授業の導入で学習の動機づけができるよう、さまざまな工夫をしています。「ガイダンス」は家庭分野をはじめに、「わたしの興味・関心」は学習のまとまりをはじめに、導入課題は毎時間ごとをはじめに、小さな課題を配置して、学習する意欲を喚起します。

ガイダンス

ガイダンスでは、全体の学習を概観する内容や学び方を示し、3年間の学習のイメージをもつことができます。

教科書 p2・3 家族・家庭と地域の生活

教科書 p4・5 生活の土台 自立と共生

教科書 p174

教科書 p252

自立と共生、見方・考え方についてイラストでわかりやすく解説しています。

わたしの興味・関心

それぞれの学習内容のはじまりには、学習をはじめの前と後に興味・関心を記入する欄を設けています。学習前後の生徒の変容がみとれます。

教科書 p70・71 食生活 わたしの興味・関心

実物大の食品です。食品の概量を知る手助けになります。

実物大の手足をみて、自分の成長をふり返ることができます。

教科書 p14・15 家族・家庭生活 わたしの興味・関心

0歳、6歳の手形と自分の手をくらべてみよう

アクティブ・ラーニング はじめの一步

「能動的な学習」を意味するアクティブ・ラーニング。生徒がすすんで学習をすることを促すためには、教えたい内容を生徒自らが発見できるよう、導くことが大切です。それは、これから学ぶ未知の知識への関心であったり、今まで自明のことであったことでも確信がもてなくなりもう一度考え直すきっかけであったりします。それらのすべてがスイッチとなり、能動的に学べるようになります。

自分自身の生活をみつめることがすべての学びの出発点です。

衣服について汚れが落ちなかったことはありませんか？それはどのような汚れでしたか？

教科書 p174

どろ 絵の具 カレー

登校前に、ワイシャツにコーヒーをこぼしたときは焦ったなあ。

導入課題

身の回りのことをもとにした課題です。学習にいきなうきっかけとなり、意欲的に学習に取り組みます。

クリームドーナツを買って家で食べたら、いつまでたってもクリームが出てこないで、割ってみるとクリームが入ってなかった！あなたならどうしますか？

教科書 p252

それはがっかりだな。お店に連絡したほうがいいかな。

2. 中学生に必要な栄養を満たす食事

教科書 p94

3 献立ステップ1 栄養バランスを目で見て判断

下の写真は、お店で売られている実物大のお弁当です。この栄養バランスは6つの食品群別に見て、適当でしょうか、目で見て、話し合ってみましょう。

実物大のお弁当から、まずは問題に気づくことができます。

献立学習は2ステップ

今回の学習指導要領で重視される「献立づくり」は2回に分けて、扱います。

食生活の学習を一通り経た後で、献立について、一段レベルの高い課題に取り組みます。

教科書 p146・147

6 献立づくり 1日分の献立

石の献立表、主食、主菜、副菜、汁ものまたはお味噌汁に分けてみましょう。

1日分の献立を立ててみましょう。

1日分の献立を立ててみましょう。

1日分の献立を立ててみましょう。

# 特徴 2

# 家庭でも取り組みたくなる調理実習例

調理実習のページは、すっきりとしたわかりやすいレイアウトとともに、「おいしそう!」「つくってみたい!」と感じるできあがり写真を掲載して、意欲をもって取り組めるようにしています。

## 所要時間

所要時間のめやすも記載しています

## 調理アイコン

調理の手法をアイコンで明確にしています

## 材料と分量

一人分の材料と分量がひとめでわかるように写真で示すとともに、アレルギー物質を含む食材には色を伏して注意をうながしています。

## 基本フォーマット

**調理時間**  
約50分

**調理アイコン**  
煮る

**教科書 p118・119**

**煮こみハンバーグ**

★肉の調理上の性質がわかる。  
★ひき肉を煮ることができ。  
★中まで火を通す調理ができる。

**材料と分量 (1人分)**

- アレルギー物質(27品目)を含む食材
- ハンバーグステーキ
- たまねぎ 30g (みじん切り)
- パン粉 2g (小さじ1)
- 小麦粉 2g (生シロ粉相当10g)
- 牛乳 100ml (100)
- 卵 12g (1/2個)
- 塩 1.4g (小さじ1/4)
- 調味料 (こしょう、ナツメグなど) 少々
- 水 3ml (小さじ1/2)
- トマトソース 25g
- 小麦粉 45g (大1)
- 小麦粉 4g (大1)
- 水 30ml (大2)
- つけ合わせ
- にんじん 25g (5mmの輪切り)
- さやいんげん 10g (2本)
- さやえんどう 各少々

**組み合わせ例**

● **せん切り野菜スープ**

手順 (1人分)

- たまねぎ・にんじん・ピーマン・ベーコン各10gをせん切りにする。
- 湯とうした湯(180ml)に1を入れる。
- 再び湯とうしたら、火を止め、塩・こしょう(少々)を味を調える。

**ハンバーグステーキ**

● **組み合わせた場合の手順例**

煮こみハンバーグ	たまねぎを切りに切る	パン粉を牛乳にひたす	肉を混ぜる	焼く	トマトソースを入れて煮こむ	盛りつける
つけ合わせ	にんじんを切る	さやいんげんのすじをとって切る	ゆでて、調味する			盛りつける
せん切り野菜スープ	野菜を切る	湯とうする	調味する			器に盛る

**調理手順 QR**

- 1 いためる
- 2 ひたす
- 3 混ぜる
- 4 形を整える
- 5 焼く
- 6 煮る
- 7 盛りつける

**つけあわせの調理手順**

- 1 にんじんの皮をむいて切る。
- 2 さやいんげんのすじをとり、3cmくらいに切る。
- 3 にんじん、さやいんげんをゆでて、塩、こしょうをふる。

**煮こまない場合**

中火で焼いた後、ふたをして弱火で10分間焼く。切身をさして浮かんできた肉汁が透明になれば焼き上がり。しっかりと中まで火を通す。

**調理方法 Q&A**

Q1 なぜたまねぎをいためるの?  
A1 たまねぎをいためることで水分が蒸発してたまねぎ中の糖が濃縮されるなどして、甘みが強まります。

Q2 なぜ塩を入れて混ぜるの?  
A2 塩を入れて混ぜると肉の結びが出て形がずれにくくなります。

Q3 3回混ぜて焼いた場合

Q4 30回混ぜて焼いた場合

Q5 なぜパン粉と卵を入れるの?  
A3 パン粉は、肉汁を吸ってハンバーグをジュワーに保ち肉が縮むのを防ぎます。卵は、加熱により凝固し、肉がくずれのを防ぎます。

Q6 なぜ空気を抜いてくぼませるの?  
A4 空気を抜かないと焼いたときにふくらんで割れるからです。中央にくぼませることで火を通りやすくして、食中毒を防ぎます。

※肉は中までしっかりと火を通す。  
※肉を振った器具や手はすぐに洗剤で洗う。

**調理方法 Q&A**

異なる種類の肉をあわせてひいたものをあひき肉といいますが、肉の組み合わせはいろいろありますが、鶏肉、あひき肉と表示されているものは、牛肉とひいた肉をあわせているものです。

※ひき肉をステーキのように焼くハンバーグは、正式にはハンブルグステーキといいますが、一部にはドイツ北部の港町ハンブルグでつくられた料理だとされています。

### 科学的理解が主体性をうながす

実習にすすんで取り組むためには、「なぜこうするのか」という科学的な視点も欠かせません。調理手順でも、そうする理由が示されていれば、生徒は自ら、どこに注意すべきか理解し、調理を進めることができます。調理手順を時間ごとに写真で示していることも、見通しをもてる効果があり、生徒はあとのくらいでできあがるのか意識して、集中して調理に取り組むことができます。

1品料理から献立までつくってみたいくなる調理例が満載です。

# point 2 学びが主体的になる

**豊富な実習例**

**蒸し調理も簡単に**

**おやつも充実**

**雑煮**

**手打ちうどん**

**基礎・基本**

他にも実習例に加える副菜・汁物の調理例を数多く掲載しています。

基礎技能も充実しています。

### 調理実習例 (教科書の掲載ページを示しています)

1 しょうが焼き 116	10 蒸し野菜のサラダ 132
2 煮こみハンバーグ 118	11 青菜の卵とじ 133
3 牛丼 120	12 筑前煮 134
4 シチュー 121	13 ミネストローネ 135
5 煮魚 124	14 あと1品 136
6 ムニエル 126	15 おやつやデザート 138
7 焼き魚 127	16 雑煮 144
8 つみれ汁 128	17 手打ちうどん 145
9 かば焼き 129	

教科書 p110・111

14

15

# 特徴 3

## 普段から使いたくなる魅力的な製作実習例

製作例は地域・学校や先生の事情、生徒の興味・関心に応じて選べるように、平易なものから難度の高いものまで、多種多様な例を掲載しています。ただつくるのではなく、何のためにそれをつくるのか意識することでより豊かな生活の創造につながります。

### 活用感のある写真

学習した後の活用場面をイメージできるよう、製作例は実際に生活の中で使われているカットを掲載しています。

はかなくなったジーンズをリメイクしたよ



製作した非常持ち出し袋を早速使っているよ



ファイルカバー ブックカバー 診察カード入れ 道具入れ

### ストーリー性のある製作例

イメージ写真からは、製作の必要性もみえてきます。



リバーシブルバッグ



クッションカバー

今回の学習指導要領では「不用なもの」を活用した製作が求められています。リメイクをしても、実際に活用されなければ意味がありません。教科書では、リバーシブルバッグ、クッションの活用場面を掲載し、普段使いたくなるよう工夫しています。

### めあてに向かってねばり強く

生徒は強制されていると感じると、力を発揮できません。ねばり強く取り組む必要がある製作などではなおさら、やる気の持続が大切になります。生徒が主体的に取り組むために効果的なのが、目標づくりです。教科書に掲載された、めあてを参考に、自分ならばどのように活用するか、目標を立てさせることで、自らの選択で製作をしているのだという意識をもつことができます。

技能レベルや製作時間なども幅広く選択できます。



point 2 学びが主体的になる

変身グッズで幼児のテンションもアップ!

教科書 p192・193

教科書 p196・197

### 基本フォーマット

製作のめあてが明確  
各製作例には、その題材でのめあてを明確に記載しています。

製作手順はイラストを用いてわかりやすく示しています。

製作に必要な知識・技能を6ページにわたってまとめています

### 基礎・基本

### 製作実習例

- 1 ファイルカバー 188
- 2 ブックカバー 189
- 3 診察カード入れ 189
- 4 非常持ち出し袋 190
- 5 道具入れ 191
- 6 ハーフパンツ 192
- 7 ごっこ遊び道具 193
- 8 リバーシブルバッグ 194
- 9 クッションカバー 195

(教科書の掲載ページを示しています)

教科書 p196・197

# 特徴 4

## 授業が毎時間アクティブに展開できる

調理や製作の他にも、実習・実験題材や、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループワークなど、毎時間アクティブ・ラーニングが展開できるように、充実させました。

### 臨場感ある保育実習

ふれ合い体験の準備から、実習、ふり返りまで、一連の流れで示したページで、実習のイメージを明確にすることが出来ます。

#### 保育所に行ったよ!

**ふれ合い体験の前に**

★おもちゃなど体験で使うものを準備する。

★お話を聞いて、ふれ合い体験のイメージを共有する。

★お話を聞いて、ふれ合い体験のイメージを共有する。

★お話を聞いて、ふれ合い体験のイメージを共有する。

**ふれ合い体験の後に**

★ふれ合い体験の感想をまとめる。

★お話を聞いて、ふれ合い体験のイメージを共有する。

★お話を聞いて、ふれ合い体験のイメージを共有する。

教科書 p46・47

### 介助実習はわかりやすく

新設の介助体験は実践しやすいうその方法をわかりやすく示しています。(本書 p.38参照)

#### 教科書 p61

高齢者介護は、介護する家族だけで抱えます、周囲に相談し、頼ることが必要です。

介助される人を不安にさせないことが大切です。

声をかけ合いましょう。

**やってみよう**

介助を体験してみましょう

右図のようにペアになって、手助けが必要な高齢者の、立ち上がりや歩行などの介助を体験して、次のことを話し合ってみよう。

- ・介助された人は、どのような気持ちでしたか。どのようなことを望みましたか。
- ・介助した人は、どのような注意をしましたか。
- ・介助する人もされる人も、尊重される介助の環境づくりにはどのようなことが必要ですか。

**立ち上りの例**

- 手を握り合せて、介助される人におびきをするようにしてお尻を浮かせてもらう。
- 介助される人にひざを伸ばして上体を起こしてもらい、介助する人は引っ張らない。

**歩行の例**

介助する人は介助される人の腕に立ち、わきを支えて手を添え、相手のペースに合わせて歩く。

### 実験も豊富

実験・観察などの体験を通して、学習の理解が深まります。実験の手順・結果はQRコンテンツからも確認できます。

#### 教科書 p87

**実験**

でんぶんを含むか確かめてみよう

方法

- ① 食品を薄く切って皿に並べる。
- ② ヨウ素溶液を1、2滴たらし、色の変化を観察する。

ヨウ素溶液の代わりにヨウ素系うがい薬(茶色)を薄めて使用してもよい。水道水には塩素が含まれており、ヨウ素の色を消すことがあるので、薄めるときは湯ごましを使うとよい。

→炭水化物のでんぶんは、ヨウ素に反応して青紫色になる。

#### 教科書 p175

**やってみよう** しみ抜き

「しみ抜き」は、衣服の一部に汚れが付着したときに衣服全体を洗わずに汚れを落とす方法として、よく使われます。

- ① しみ抜きを体験してみましょう。しみのついた布をたたんだタオルの上に汚れを下にして置き、水などの液体をつけた歯ブラシや布でたく。
- ② 汚れの種類や洗浄液の種類などによってしみの落ち具合が異なります。比較してみましょう。

しみの種類と落とし方

水性のしみ(しょうゆ)	基本的に水で落とす
油性が混じったしみ(ボールペン、スリッパなど)	水だけでは落ちず、洗剤を使う
色素が混じったしみ(カレー、ジュースなど)	色素が残りやすい
汗	こはんと洗剤

### アクティブ・ラーニングの学習技能

アクティブ・ラーニングで必要となる学習技能には、①比較をして違いを発見できる、②原因を予想できる、③調べ学習ができる、④情報を整理することができる、⑤自分の考えを書くことができる、⑥グループで話し合いができる、⑦クラス全体で討論ができる...などがありますが、教科書ではそれらの技能を用いた課題を「話し合ってみよう」「やってみよう」「考えてみよう」「発表しよう」の4つに分類しています。講義型の授業の場合もアクティブ・ラーニングを取り入れていくことができます。

生徒の活動場面も満載、授業のイメージがわきます。



point 2 学びが主体的になる

### アクティブ・ラーニングの課題

各ページに設けられた「話し合ってみよう」「やってみよう」「考えてみよう」「発表しよう」は、アクティブ・ラーニングの学習活動に即した課題です。

#### 教科書 p23

**やってみよう**

ロールプレイングを通して、家族の気持ちや立場を考えてみましょう。

ロールプレイングとは

立場がちがう人の役割をその人の立場を想像して演じることを、ロールプレイング(役割演習)と呼びます。それによって、相手の気持ちを理解し、人間関係の改善や解決方法を考えることができます。演じるのが難しいときは、ペーパーパート(5枚程度の紙を貼ったもの)を使ってやってみたり、登場人物のせりふを書き、読みあわせたりしてもよいでしょう。

**手順** ロールプレイングの進め方

- ① 5人のグループに分かれ、役職人物やその役割、場面などを決め、場面設定などのせりふを考える。
- ② で決めたせりふから始め、それに続けて、思いついたまませりふを言ってみる。
- ③ 1グループずつ演じて、発表する。他のグループは観客になる。
- ④ 演習が終わったあと、役職を履いて、みんなで話し合ってみる。

演者の気持ちや考えを伝え、自分からどうするかを考えた方がいい。他のグループの発表と比べてみよう。

どちからかを選んでやってみよう

設定例 1 【登場人物】 Aさん(中学2年生)、親、弟(高校1年生)、その他

設定例 2 【登場人物】 Bさん(中学2年生)、親

#### 教科書 p178

**話し合ってみよう**

セーター(毛)を洗濯したら縮んでしまいました。なぜ縮んだのか話し合ってみよう。

左:洗濯前 右:洗濯後

#### 教科書 p242

**発表しよう**

商品をアピールするためにどのような表現が使われているのか、どのようなところにひかれてしまうか、話し合い発表しましょう。

広告のひきつけ手法の例

50%OFF

店長おすすめ

みんな使っている!

みんな使っている!

初めての人にはプレゼント付き

#### 教科書 p109

**やってみよう**

だし汁の味を比較してみましょう

① こんぶ ② かつおぶし ③ こんぶとかつおぶし

これらの食品からだし汁をつくり、だし汁の重量の0.5%の塩分を加え、それぞれのだしの味を比較してどのようなちがいがあるか五感を使って言葉に表してみましょう。

○目で見て ○舌で味わって

**こんぶとかつおぶしのだし汁(混合だし)**

材料と分量(1人分)

水.....200mL(150mL+蒸発分50mL)

こんぶ.....2~4g(水の重量の1~2%)

かつおぶし.....2~4g(水の重量の1~2%)

**つくり方**

① こんぶのだし汁

② かつおぶしのだし汁

③ こんぶとかつおぶしのだし汁(混合だし)

① こんぶのだし汁の手順②のあと、沸とうしたら③かつおぶしのだし汁の手順①からつくる。

### グループワークの様子



# 特徴 5

# 学んだことをすぐに生活にいかせる

家庭分野は「生活を見つめ、学んだことを生活にいかす」ことを目標にしています。教科書では、学習内容の活用課題である「生活にいかそう」で知識・技能を適用する力を養いつつ、「生活の課題と実践」で、自ら課題を発見し実践できるようにしています。

## ふり返り

学習のまとめごとにふり返り、確実に基礎・基本を定着させられます。

チェック式ではなく自分の言葉で書くので内容が身につきます

[p.214~p.220]

**ふり返り**

1. 家庭内でも命にかかわる事故が多く起きていることを学びました。こうした事故を防ぐために、あなたができることを考えてみましょう。
2. 災害について学びました。あなたの家で準備していることはなんですか。さらにどのような準備をすればよいと思いますか。

**ふり返り**

1. 衣服の社会的はたらきについて、小学校5・6年生にあなたの言葉で伝えてみましょう。
2. 外国の人にあなたがよいと思う和服のよさを伝えてみましょう。

**生活にいかそう**


子どもが遊びに来るぞー！

来週の日曜日、自分の家に親せきのまことちゃん（3歳）が来て、10時から16時まであずかることになりました。


まことちゃんといっしょに過ごすための留意点はどのようなことでしょうか。

1. 下のような遊びをすることになりました。あなたはどのようなことに注意したらよいですか。


A



B



C




2. おやつお昼寝、トイレに行くときについて、どのような注意が必要ですか。

おやつ ( )  
 昼寝 ( )  
 トイレ ( )

**生活にいかそう**

商品の表示の学習で、チョコレートのパッケージを持ち寄りました。パッケージには、カカオやフェアトレードと書いてあるものもありました。調べてみると次のことがわかりました。下は調べたことの一部です。

・フェアトレード  
 「fair trade」は文字通り、公正な取引ということです。チョコレートの場合、適正価格で途上国のカカオ製品を扱うことにより、途上国の人びとの経済生活を支える取り組みです。



世界のカカオの生産国とチョコレート消費国（それぞれ上位10位）

・チョコレートの原料カカオ  
 カカオの木にはラゴビーボールのような果実がなっています。カカオの果実の種の中には卵のようになっているカカオ豆があります。

・カカオ農園で働かされる子ども（児童労働）  
 子どもたちも果実からカカオ豆を取り出す仕事をしなければ、養育を受ける機会などが奪われていく危険があります。

話し合ってみよう  
 (1) 図や写真を見て、感じたことを話し合ってみましょう。  
 (2) 実際にフェアトレードのチョコレートを買おうと思ったら、値段は少し高く、フェアトレードのチョコを置いていない店もありました。あなたはこれからどうしますか。みんなで話し合ってみましょう。

ここで探求することで、学んだことを確認しつつ、新たな学び方も習得することができます。

## “生活にいかす”は「イ」に対応

新学習指導要領は各内容の各項目が、指導事項「ア」と「イ」で構成されており、基礎的・基本的な知識・技能の習得である「ア」で習得した知識や技能を活用して思考力・判断力・表現力等を育成するのが「イ」です。この「イ」に対応する内容として、学習のまとめごとにその学習の総まとめ的な活用課題「生活にいかそう」を設定しています。

生活にいかそうは18例。生活の課題と実践は12例、用意しています。



point 2 学びが主体的になる

## 生活の課題と実践

自ら生活の課題を発見し、解決するための計画の例を豊富に紹介しています。長期休暇に、一人で時間をかけて取り組むこともできます。

課題を解決していく流れの例を示し、丁寧な解説を入れています。

**生活の課題と実践の進め方**

進め方にはいろいろあります。次の進め方の流れは、一つの例です。参考にして、自分の計画を立てましょう。

- 1 生活を見つめる
- 2 課題を設定する
- 3 進め方の方法を計画する
- 4 実践する
- 5 まとめ・発表する（対話）
- 6 生活にいかす

**実践のまとめ方**

まとめのための簡単なメモの例

① 課題名	② 課題設定の理由
③ 方法とその実践	④ 実践して得たこと
⑤ 改善・解決について	⑥ すぐ生活にいかせたい改善点
⑦ 課題や進め方などの反省点	⑧ 発表の方法

● 自分が実践したことをわかりやすく相手に伝えよう——まとめ方の例

レポート

- 調べたことや実践したことを報告するためのまとめる。

ワークシート

- 書くべきことの枠組みを設け、短時間でまとめる。

新聞やポスター

- 1枚の紙に、調べたことを整理する。

プレゼンテーションソフト

- パソコンなどを使用し、発表内容をまとめる。

ポर्टフォリオ

- 継続的に調べたものや、データなど研究した成果を、ファイルに整理、保存する。

作品

- 実物を展示する。

**A 家族・家庭生活とつながる課題例**

- 1 児童館・子ども家庭支援センターなどを訪問する
  - 1 生活を見つめる
  - 2 課題設定
  - 3 計画
  - 4 実践
  - 5 まとめ・発表
  - 6 生活にいかす
- 2 手づくりのおやつづくり
  - 1 生活を見つめる
  - 2 課題設定
  - 3 計画
  - 4 実践
  - 5 まとめ・発表
  - 6 生活にいかす
- 3 1日家事体験
  - 1 生活を見つめる
  - 2 課題設定
  - 3 計画
  - 4 実践
  - 5 まとめ・発表
  - 6 生活にいかす

相互に関連する内容がわかるように課題例を示しています。

実践例でも、進め方に沿った具体的な方法を例示しています。

計画・実践の例だけでなく、その報告のしかたも多様かつ具体的に示しています。（レポート、プレゼンテーションソフトなど）